

## ストーリー

## 1 「澄み酒」の出現と「伊丹諸白」

六甲山を西に望む「伊丹」。伊丹市鴻池に建つ碑に、「鴻池家は酒造によって財をなし、慶長5年(1600年)から200年も続いている。その初代は幸元で山中鹿之介の子であると言われている。鴻池家は、はじめて清酒諸白を製造し、江戸まで出荷した。」と刻まれています。白く濁った「濁り酒」ではない「澄み酒」が生み出された、「清酒発祥の地・伊丹」を伝える伝承です。

江戸では、関西・上方から送られた諸産物を「下り物」として好みました。なかでも酒は、「下り酒」として歓迎されました。とりわけ伊丹の酒は、麴と掛米両方に精白米を惜しみなく使ったことから「伊丹諸白」と呼ばれて珍重され、江戸で人気を博しました。

江戸時代の名所案内記『摂津名所図会』に「名産伊丹酒」として、「伊丹には造り酒屋が60軒余りある。どの酒屋も美酒を数千石造り、全国各地に送り出している。銘柄を印した菰樽を神崎に送り、そこから廻船に積んで多くが関東へ送られる。」と記され、下り酒の名産地、江戸積み酒造・伊丹の名を馳せました。

地域の文化財を愛し四半世紀の歴史を誇る「伊丹市文化財ボランティアの会」のガイドで、我が国最古の酒蔵・商家が残る重点景観形成区域「伊丹郷町」や清酒発祥の碑などの文化財を訪れ、清酒発祥の地・伊丹を体感することができます。



現存する日本最古の酒蔵  
「旧岡田家住宅・酒蔵」に展示される  
酒造道具等の見学

## 2 六甲山の恵みと丹波杜氏が生んだ「灘の生一本」

ここは、「灘五郷」。六甲山の麓、西宮市の今津郷・西宮郷から、神戸市東灘区の魚崎郷・御影郷・灘区西郷へと続く東西12kmに及ぶ日本最大の清酒酒造地帯は今日、「灘五郷」と呼ばれ、その酒は「灘の生一本」で知られます。現在約25%のシェア、我が国清酒の4本に1本が灘五郷の酒です。

伊丹から清酒造りを導入した西宮・灘の酒蔵は、背後にそびえる六甲山から多くの恵みを得、下り酒の産地として台頭します。

六甲山の東南麓、西宮郷で汲み上げる伏流水「宮水」は、酒造りの天与の霊水といわれ、淡麗な「灘の男酒」を生み出しました。新酒の仕込みが始まる10月、「宮水まつり」として宮水が発見された「梅の木井戸」の地に立つ「宮水発祥之地碑」の前で、時代装束をまとった各酒造会社代表が神事に参列したあと西宮神社に向かい、えべっさんの酒醸造祈願祭を行います。西宮市宮水保全条例の制定など、都市開発との調和を図りながら、蔵元・市民・自治体が共に水質の保全に取り組んでいます。



えべっさんの酒醸造祈願祭を行うため  
西宮神社本殿まで練り歩く

灘の生一本と共に育った最良の酒米として知られる「山田錦」は、昭和11年(1936年)、兵庫県立農業試験場で誕生しました。現在、山田錦は蔵元と農村が生産契約を結ぶ「村米」制度のもと、気候・土壌が栽培に適した六甲山の北側に広がる水田地帯で大切に育てられています。西宮郷・白鷹辰馬家をはじめ各蔵では、山田錦の田植え・稲刈り体験公開講座を通して栽培農家と清酒を愛する人々との懇親を今も深めています。

酒米の精白には、六甲山を流れ下る芦屋川などの急流を利用した大規模な水車を用いました。人力足踏み臼の精米に比べ、高い精白度の酒米を大量に得られるため、質・量ともに安定した清酒の生産が可能になりました。

酒造りの職人「蔵人」は、六甲山の北、丹波地方に求めました。丹波杜氏です。丹波杜氏は、厳冬期に仕込む「寒造り」、発酵を促す「三段仕込み」、淡麗な味を生む酒造法の確立など、酒造りの技術を磨き、道具に改良を重ね、現代の清酒につながる酒造りのスタンダードを築きました。



蔵人から蔵人へ傳承されている酒造り唄には、秋洗い唄、酛摺り唄、仕舞い唄、三本權などがあり、どれも作業に合わせた民謡調の唄です。新酒を楽しむ蔵開きなどで披露されます。

灘五郷の伝統的な酒蔵は、六甲山から吹き降ろす冬の季節風「六甲おろし」を背に受けて建つ前蔵と大蔵からなる「重ね蔵」です。重ね蔵は、外気の影響を受けにくい一方、蔵の配置と北面の窓の工夫により、六甲おろしを利用した効果的な冷却・換気を可能にしました。また、名高い吉野杉で造られた大桶や酒樽、キツネやサルなどと名づけられた酒造り用具は、酒造工程に適った高い完成度を誇ります。西宮郷・白鹿辰馬家の「本蔵」などの酒蔵や、御影郷・菊正宗嘉納家の「灘の酒造用具」など酒造り用具の数々は、丹波杜氏の技を形あるものとして私たちに見せてくれます。



白鶴旧本店老号蔵での  
酒造工程立体展示

### 3 「下り酒」と「樽廻船」

下り酒を江戸へ届けたのは、酒輸送専用の樽廻船でした。江戸時代末には、樽廻船で江戸へ下った酒は1年100万樽、江戸の酒の8割を占めました。樽廻船は、明治になってその地位を汽船や鉄道に譲るまで江戸へ酒を送り続け、伊丹・西宮・灘の江戸積み酒造の発展を流通から支えました。

「新酒番船」は、新酒を積載した樽廻船の江戸への着順を競う番船、つまり船のレースで、西宮—江戸間の最速記録は57時間と伝わります。西宮で開かれる清酒の祭りでは、新酒番船を模したパレードが行われ、惣一番（一着）の赤いハッピを着た水主たちの様子が再現されます。

酒を積み出した港頭に建つ、今津郷・大関長部家の今津灯台と尼崎市神崎の石灯籠は、金毘羅宮を勧請して航行の安全を祈願した常夜灯です。兵庫・西宮・大坂を出帆した樽廻船は、江戸への途上、熊野灘、遠州灘など難所を航海します。船倉に積み込まれた酒樽が荒波で壊れないよう、また、潮風にさらされて酒の味が落ちないように、大切に菰で包む菰樽が開発されました。今日、華やかな鏡開きに欠かせない菰樽づくりは、尼崎市塚口で全国8割のシェアを誇り、菰樽づくり体験でにぎわいます。



台湾からの留学生等による  
菰樽づくりの見学

### 4 酒造家が育んだ文化

この地域に生き、この地域の発展を願った酒造家たちは、江戸積み酒造がもたらした富を芸術、文化、教育や建築に注ぎました。白鶴美術館は、御影郷・白鶴嘉納家が美術館設立のために収集した国宝2件を含む古美術コレクションを収蔵して創設されました。酒造家による芸術・文化の支援と文化財の収集・保存の精神をよく表しています。フランク・ロイド・ライトの設計で有名な「旧山邑家住宅」は、魚崎郷・櫻正宗山邑家の別邸です。灘五郷の背後、六甲山の山肌に沿うように建つこの住宅は、この地域を愛した酒造家の進取の気風を伝える代表的な近代建築です。昭和4年（1929年）建築の校舎が残る灘中学校・高等学校は、御影郷・菊正宗嘉納家・白鶴嘉納家、魚崎郷・櫻正宗山邑家の人材育成の志を受けて創設された学校です。

酒造家たちの文化への眼差しは今日「阪神間モダニズム」と称される近代文化勃興の核となり、近代化への思いは阪神間の都市の骨格を形作りました。伊丹・灘五郷では、酒造家のコレクションを展示する美術館や酒蔵を利用した博物館など20のミュージアムで、地域文化興隆への思いに触れることができます。

多くの恵みをもたらしてくれる六甲山系の麓「阪神間」の伊丹・灘五郷28蔵は、酒造技術の継承と革新という江戸時代以来の酒蔵の伝統を伝え、清酒のスタンダードを築いた酒造家としての矜持と進取の気風を生みました。酒造りの人と風土に恵まれたこの地では、世界の人々に愛される多彩な清酒が造られています。



「旧山邑家住宅（淀川製鐵迎賓館）」



ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地(※4)
1 「澄み酒」の出現と「伊丹諸白」				
①	まつづめいしよぞう 撰津名所図会	未指定 (歴史資料)	「名産伊丹酒」として、江戸積みで繁栄した伊丹の酒造りを絵入りで伝える。寛政8年～10年(1796年～1798年)に刊行された撰津国の名所案内記。伊丹市立博物館ほか所蔵。	伊丹市
②	にほんさんかいめいさんず 日本山海名産図会	未指定 (歴史資料)	伊丹は高品質の酒の発祥地であり、鴻池(現伊丹市)の山中氏の酒蔵が江戸積酒造のはじめである、と伝える。寛政11年(1799年)に刊行された全国の名産品を図説で紹介した書物。伊丹市立博物館ほか所蔵。	伊丹市
③	こうのいけいなりしひ 鴻池稲荷祠碑	伊丹市指定 (史跡)	慶長5年(1600年)に澄み酒醸造に成功し、山中家繁栄の礎となったことなどが刻まれる。山中鹿之介の長男幸元が始祖、近代以降鴻池財閥となる。	伊丹市
④	きゅうおだ だ けじゆうたく つげたりむな 旧岡田家住宅 附 棟 ふだ かまや 及び あらい ば 札、釜屋及び洗い場 搾り場	国重文 (建造物)  未指定 (史跡)	建築年が確実な我が国最古の酒蔵(延宝2年・1674年)。内部に江戸積酒造業史や伊丹郷町史の資料展示。洗い場等発掘遺構を露出展示。伊丹市立伊丹郷町館の中心施設で、清酒発祥の地伊丹を象徴。	伊丹市
⑤	きゅういし ぼしげじゆうたく 旧石橋家住宅 いたみごちちよういせきほくつちようさ 伊丹郷町遺跡発掘調査 しゅつぽんとう 出土品等	兵庫県指定 (建造物)  未指定 (考古資料・ 歴史資料)	伊丹郷町で酒造りも営んだ石橋家住宅の主屋(幕末)を移築保存。建物内に、移築時の発掘調査出土品、酒造関係史料等を展示。「伊丹郷町クラフトショップ」を併設。旧岡田家住宅とともに伊丹市立伊丹郷町館を構成。	伊丹市
⑥	こにししほぞう ちようじゆうぐら 小西酒造「長寿蔵」 (白雪ブルワリービレッジ 長寿蔵)	未指定 (建造物)	伊丹・白雪小西家の酒蔵(19世紀)を曳家し、1階はレストラン、2階で酒造技術の展示。伊丹郷町にあり、食事と酒造文化の観光を楽しむことができる。	伊丹市
⑦	さかだる おけ 酒樽・桶づくり用具一式 (樽丸づくり用具を 含む)	兵庫県指定 (有形民俗)	伊丹郷町における酒造用の樽・桶製作用具の一式。樽丸とは樽・桶の側板となる用材のこと。伊丹市立博物館所蔵。	伊丹市

⑧	この えけかいしよかんけいしりよう 近衛家会所関係資料	伊丹市指定 (歴史資料)	江戸時代、近衛家会所に酒造家等から選ばれた惣宿老らが集まって伊丹町政を運営。会所に使われた瓦・調度品などの資料。伊丹市立博物館所蔵。	伊丹市
⑨	こにししんろうえもんしもんじよ 小西新右衛門氏文書	未指定 (古文書)	伊丹・白雪小西家等(天文19年・1550年創業)に伝わった古文書。小西家は近世伊丹の領主近衛家の支配下で町政を担った惣宿老役。伊丹市立博物館寄託。(小西酒造株式会社所蔵)	伊丹市
⑩	いたみ しめぞうようぐおよ かんけい 伊丹・酒造用具及び関係資料	未指定 (有形民俗) (歴史資料)	伊丹・白雪小西家を使用した酒造用具・酒蔵の主要建築部材・頼山陽揮毫「白雪」額(店看板)など。頼山陽は、江戸時代後期の思想家・儒学者・詩人で、酒を愛し、銘酒「白雪」・「剣菱」などを手紙や詩歌でたたえた。小西酒造株式会社・伊丹市立博物館所蔵。	伊丹市
⑪	つのくにやえいたいちろう 津国屋永代帳	未指定 (古文書)	近世伊丹を代表する酒銘柄「剣菱」の最盛期から衰退期に至る、天保8年(1838年)から明治11年までの酒蔵経営の推移を物語る重要な史料。表題に「永代帳」、裏表紙に坂上勘三郎(屋号は津国屋)とある。剣菱酒造株式会社所蔵。	神戸市
⑫	ありおかじょうせき いたみごうちょう 有岡城跡・伊丹郷町遺跡	未指定 (史跡)	江戸積酒造業を基幹産業とし発展した伊丹郷町。伊丹市の中心部。酒蔵遺構や町家遺構など、江戸時代を中心とし遺構が残る。これまで390次を超える発掘調査が行われている。伊丹郷町地区として、景観法に基づいた「重点的に景観形成を図る区域」に指定し、歴史的な景観を保存。国重文旧岡田家住宅などを含む伊丹市立伊丹郷町館や白雪長寿蔵などが点在する。	伊丹市
2 六甲の恵みと丹波杜氏が生んだ「灘の生一本」				
⑬	ひょうごけん しめぞうしゅうぞく 兵庫県酒造習俗	国選択 (無形文化財)	灘五郷(西宮・灘)の酒造りに関する習俗。宮水・酒米・水車精米・丹波杜氏・樽廻船などにより著しい発展を遂げた江戸積み酒造業の酒蔵における技術と伝承。	神戸市 西宮市

⑭	みやみずはつしょうのちひ みやみずい 宮水発祥之地碑 宮水井 みやみずちたい 宮水地帯	未指定 (史跡)	天保 11 年(1840 年)に魚崎郷の山邑太左衛門が宮水を発見したと伝わる梅の木井戸の故地に立つ。宮水の取水は、各社が管理する宮水井から行う。一部は宮水庭園として公開。環境省選定名水百選。西宮市宮水保全条例により都市開発との調和を図る。	西宮市
⑮	あしやがわ ぶんかてまきけいかん 芦屋川の文化的景観	芦屋市指定 (文化的景観)	芦屋川の水車場で使われていた石臼が住宅の石垣の石材として残り、また六甲山を背に国重文旧山邑家住宅が建つなど、芦屋川沿いには地域の歴史を物語る多数の歴史文化遺産が残っている。	芦屋市
⑯	あしやがわすいしやま ず 芦屋川水車絵図	未指定 (歴史資料)	芦屋川にあった 22 ヶ所の水車場とそれらを結ぶ水路等が描かれている。水車は酒米の精白に使用された。安政 4 年(1857 年)。芦屋市立美術博物館所蔵。	芦屋市
⑰	なだごころ きげづくり うた 灘五郷・酒造り唄	未指定 (無形民俗)	酒造りの各工程で蔵人が謡う。秋洗い唄、甑すり唄、甑かき唄、水汲み唄、水添え唄、杜氏祝詞、朝の謡物、風呂上がり唄、三本權、仕舞唄などがある。灘の酒造り唄保存会(昭和 50 年結成)伝承。	神戸市 西宮市
⑱	にしのみやごう はくしか 西宮郷・白鹿 なつうまほんけしやごうほんぐら 辰馬本家酒造本蔵 かまばいこう 釜場遺構	未指定 (建造物)  (史跡)	西宮郷・白鹿辰馬本家(寛文 2 年・1662 年創業)の「本蔵」(明治 2 年・1869 年再建)。公益財団法人白鹿記念酒造博物館酒蔵館として公開。酒造用具・釜場遺構を展示。記念館では西宮郷における酒造の歴史・文化を展示。	西宮市
⑲	なだ しやごうようぐいっしき つげたり 灘の酒造用具一式 附 しやごうようおけ たる 酒造用桶・樽づくり道具 いっしき 一式	兵庫県指定 (有形民俗)	西宮郷・白鹿辰馬本家が伝える灘酒の酒造用具及び酒造用の桶・樽づくり道具の一式 517 点。公益財団法人白鹿記念酒造博物館所蔵。	西宮市
⑳	にしのみやじんじや かい せいげし 西宮神社嘉永橋	国登録 (建造物)	西宮郷の酒屋中が施主となって嘉永元年(1848 年)に建造した太鼓橋。西宮神社苑池から松尾社参拝のため架橋された。全長約 6m の花崗岩製。	西宮市

⑳	にしのみやじんじやずいほうばし 西宮神社瑞寶橋	国登録 (建造物)	西宮郷・白鷹辰馬家初代悦叟 <small>えつそう</small> が明治 40 年に奉納した太鼓橋。2 代悦蔵 <small>えつぞう</small> が青銅欄干を付設改修。西宮神社苑池に架かる石橋のひとつで、全長約 5.5m、花崗岩製。	西宮市
㉑	うおぎごう さくらまさむねやまむらげ 魚崎郷・櫻正宗山邑家 しゅぞうようぐ しゅぞうかんれんしりよう 酒造用具、酒造関連資料	未指定 (有形民俗) (歴史資料)	魚崎郷・櫻正宗山邑家(寛永元年・1625 年創業)の歴史を伝える酒造用具、酒看板や酒瓶・ラベルなど酒造関連資料。櫻正宗記念館(櫻正宗株式会社)所蔵。	神戸市
㉒	うおぎごう はまふくつるしゅぞうようぐ 魚崎郷・浜福鶴酒造用具	未指定 (有形民俗)	魚崎郷・浜福鶴吟醸工房(株式会社小山本家酒造)が所蔵する江戸時代以来の酒造用具。工房で道具を展示し、伝統的な酒造りの全工程の紹介や元蔵人の楽しい解説を聞きながら酒の試飲ができる。	神戸市
㉓	なだ しゅぞうようぐ 灘の酒造用具	国重文 (有形民俗)	御影郷・菊正宗嘉納家(万治 2 年・1659 年創業)が伝える近世～近代の酒造用具 566 点。菊正宗酒造記念館(菊正宗株式会社)所蔵。	神戸市
㉔	みかげごう きくまさむねののうけさげ 御影郷・菊正宗嘉納家酒 かんれんしりよう たるさげ 関連資料及び樽酒マイス ターファクトリー	未指定 (歴史資料) (無形民俗) (有形民俗)	御影郷・菊正宗嘉納家の酒造りに関する資料。復元された水車小屋や、美人画ポスター・木製看板・酒器・一枚板の大看板など。樽酒マイスターファクトリーでは、吉野杉の香がする工場で、樽造りの技術の伝承をしており、職人の技を見学できる。菊正宗酒造記念館(菊正宗株式会社)所蔵。	神戸市
㉕	みかげごう はくつるきやうほんてん 御影郷・白鶴旧本店 いちごうくら 壺号蔵 しゅつどいこう いぶつ 出土遺構・遺物 はくつるしゅぞうようぐ 白鶴酒造用具	未指定 (建造物) (考古資料) (有形民俗)	御影郷・白鶴嘉納家(寛保 3 年・1743 年創業)の酒蔵。大正初期建築。昭和 40 年代中頃まで稼働した蔵を改造し、白鶴酒造資料館として公開。酒造工程を立体的に展示。酒造用具や発掘調査出土品を展示。酒蔵は経済産業省から「近代化産業遺産」に 2008 年認定。白鶴酒造株式会社所蔵。	神戸市
㉖	みかげごう こうべしゅしんかんしゅぞう 御影郷・神戸酒心館酒造 ようぐ 用具	未指定 (有形民俗)	御影郷・福寿神戸酒心館(宝暦元年・1751 年創業)酒銘は福寿。醸造工場を含む 4 つの酒蔵からなる複合施設。近代化される前の酒造道具と最新の酒造を展示。リーフレットは 16 言語を用意し、インバウンドに対応している。株式会社神戸酒心館所蔵。	神戸市

⑳	まわ つるかぶしきがいにしやおいしくら 沢の鶴株式会社大石蔵 つけたりなだ しゆぞうようぐいっしき 附 灘の酒造用具一式 よみな ばいごう 槽場遺構	兵庫県指定 (建造物) 未指定 (史跡)	西郷・沢の鶴(享保2年・1717年創業)の酒蔵(江戸時代末)を沢の鶴資料館として公開。酒造道具や江戸へ酒を運んだ千石船の模型を展示。発掘調査で発見されたもろみから酒を搾る「槽場遺構」を露出展示。	神戸市
㉑	なだ さかだる さいさくぎじやう 灘の酒樽製作技術	国記録 (無形民俗文化財)	灘五郷の酒樽を製作する技術。保存団体は「灘の酒樽製作技術保存会」(菊正宗株式会社、たるや竹十 西北商店)。西郷・「たるや竹十 西北商店」は、大桶製造業として、文政2年(1819年)創業。	神戸市
㉒	ひようごのつ たるやごんべえけ 兵庫津・樽屋権兵衛家 さかだる おけ づくり どうぐいっしき 酒樽・桶づくり道具一式	未指定 (有形民俗)	兵庫津で行われた酒造りを伝える酒樽・桶づくりの道具。天正11年(1583年)から酒樽・桶を作ってきたと伝わる樽屋権兵衛家に伝承された道具一式。同家所蔵。	神戸市
㉓	ひようごのつ しめぞうかせなまえあやう 兵庫津・酒造稼名前帳	未指定 (古文書)	兵庫津の江戸積用の酒鑑札を所持する酒造人を大坂町奉行所に届け出た文書(天保15年・1844年)。神戸市立博物館所蔵。	神戸市
3 「下り酒」と「樽廻船」				
㉔	たるかいせんかんけいしりよう 樽廻船関係資料	未指定 (歴史資料)	西宮の樽廻船問屋小寺家に伝わる「樽船出帆図」、新酒番船一番杯「新酒惣壺番」、西宮鳴尾・辰馬家に伝わる樽廻船船頭らが新酒番船で着用した「入船祝法被」のほか、錦絵「新酒番船入津繁栄図」、酒鑑札、酒仕切状・廻船加入証文等酒造関係文書など。西宮市立郷土資料館所蔵。	西宮市
㉕	なだしゆぞうぎやうかんけいしりよう 灘酒造業関係史料	未指定 (歴史資料)	灘の酒造に関する経済史等史料。関西学院大学図書館デジタルアーカイブでWEB公開。関西学院大学の故柚木重三教授・故柚木学名誉教授父子が収集。柚木学教授は同史料に基づいた『近世海運史の研究』で日本学士院賞(1982年)を受賞。同図書館所蔵。	西宮市

③4	しせきとうしゃやきんべえこうわん 史蹟當舎屋金兵衛港湾 しゅうちくひ にしのみやこう 修築碑(西宮港)	未指定 (史跡)	酒を積み出す西宮港の修築顕彰碑。享和元年(1801年)、港内への砂の堆積を防ぐための築洲が西宮の商人當舎屋金兵衛の勸進により企てられ、翌年着工、築洲は徐々に延伸され、酒を樽廻船に積み出す港として繁栄する礎を築いた。	西宮市
③5	みぬめじんじゃべざいせんま 敏馬神社弁財船絵馬	神戸市指定 (有形民俗)	廻船船主らが敏馬神社に奉納した船絵馬。弁財船を額一杯に描く。18世紀中頃を中心として奉納。敏馬神社は古来よりの海上交通の要衝「敏馬の浦」に座す。社地のある神戸市灘区・大石は酒造業・廻船業が栄えた、灘五郷・西郷に当たる。	神戸市
③6	いまづとうだい つげたりたてよぞ 今津燈台 附立札	西宮市指定 (建造物)	樽廻船の出帆地西宮・今津港の港頭に建つ常夜灯。現役最古の木造航路標識(海上保安庁承認)。今津郷・大関長部家(正徳元年・1711年創業)5代長兵衛が象頭山金毘羅権現を勧請して、文化7年(1810年)創建、6代文治郎が安政5年(1858年)再建。大関株式会社所有。	西宮市
③7	かんざきこんびら いしどうろう 神崎金毘羅さんの石灯籠	未指定 (建造物)	伊丹酒は神崎を経て廻船で江戸に運ばれた。神崎に建つこの石灯籠は、航海の安全を祈念し、灯台の役割を果たした。文化元年(1804年)頃再建。	尼崎市
③8	こもだる ぎじゅつ 菰樽づくり技術	未指定 (無形民俗)	菰樽は、船での輸送中に酒樽の破損を防ぐ目的で樽に菰を巻き付けたのが始まりとされ、江戸積酒造地に近い農家の農間余業として発展した。「岸本吉二商店」「矢野三蔵商店」がその伝統を受け継ぐ。	尼崎市
③9	やの けじゅうたく 矢野家住宅	未指定 (建造物)	菰樽づくりを営む矢野三蔵商店の住宅兼事務所。大正初期建築。	尼崎市
④0	ずっしゅういたみきかだるめいかん 摂州伊丹酒樽銘鑑	未指定 (歴史資料)	江戸積酒の菰樽に商標として描かれた伊丹酒の銘柄を集成。文政13年(1830年)の酒造家57人、222銘柄を収録。伊丹市立博物館所蔵。	伊丹市



④①	摂州酒樽薦銘鑑 せつしゅうさかだるこもめいかん	未指定 (歴史資料)	江戸積酒の菰樽に商標として描かれた菰印を集成。寛政11年(1799年)から文化8年(1811年)の間の、酒造家165人、539銘柄の菰印を収録。尼崎市立文化財収蔵庫所蔵。	尼崎市
④②	神戸大学海事博物館 樽廻船資料 こうべだいがくかいじほくぶつかん たるかいせんしりょう	未指定 (歴史資料)	江戸時代後半に日本沿岸や瀬戸内海で活躍した北前船や弁財船などの和船模型をはじめ、航路図や海路図屏風など、およそ23,000点。	神戸市
4 酒造家が育んだ文化				
④③	芭蕉短冊他俳諧資料 ばしょうたんざくほかはいしりょう	伊丹市指定 (書跡・典籍) 未指定(書跡・典籍) (歴史資料)	伊丹の酒造家岡田家に生まれた国文学者岡田利兵衛(明治25年・1892年生まれ)のコレクション。我が国三大俳諧コレクションのひとつ。利兵衛は、芭蕉など俳諧を研究。号は柿衛。公益財団法人柿衛文庫所蔵。	伊丹市
④④	なぎなた(修武館) なぎなた(しゅうぶかん)	未指定 (無形)	伊丹・白雪小西家が、天明年間(1780年代)に伊丹の自衛の必要を感じて道場を創設したことに始まる。明治14年(1881年)に、なぎなた天童流14代宗家美田村頭教を招聘した。現在も、なぎなたの道場として続いている。	伊丹市
④⑤	賢愚経残卷(大聖武) 甲巻 四百六十一行 乙巻 五百三十三行 ほか多数 けんぐきょうざんかん おおじょうむ こうかん ほんひやくろくじゅういちぎょう おつあん ごひゃくさんじゅう	国宝 国重文 など (典籍)	御影郷・白鶴嘉納家7代目治兵衛が美術館設立のために収集した古美術品などのコレクション。国宝2件(75点)、重要文化財22件(39点)を含む1450点以上。国宝賢愚経残卷(大聖武)は聖武天皇御筆とされる。公益財団法人白鶴美術館所蔵。	神戸市
④⑥	白鶴美術館本館、 白鶴美術館事務棟、 白鶴美術館土蔵、 白鶴美術館茶室(松庵) はくつるびじゅつかんほんかん はくつるびじゅつかんじむとう はくつるびじゅつかんどうぞう はくつるびじゅつかんちやしつ しやうあん	国登録 (建造物)	公益財団法人白鶴美術館の建物。本館では白鶴嘉納家7代目治兵衛のコレクションを展示。土蔵は治兵衛の持論に基づき、鉄筋コンクリート造ではあるが伝統的な木造土蔵造り風の建物。事務所棟も鉄筋コンクリート造ではあるが、木造真壁造り風の建物。土蔵は伝統的な木造土蔵造りである。茶室は、入母屋屋根の中央を瓦葺とし、その周囲に銅板を葺回した瀟洒な外観を呈し、かつ上質な造りである。	神戸市

④7	絹本著色安倍仲麻呂 明州望月 円通大師 呉門隠棲図 ほか多数	国重文 (絵画)	西宮郷・白鷹辰馬家初代辰馬悦叟と富岡鉄斎との親交の中で残された作品を多数所蔵。この屏風は大正3年(1914年)富岡鉄斎筆。公益財団法人辰馬考古資料館蔵。	西宮市
④8	旧辰馬喜十郎住宅	兵庫県指定 (建造物)	西宮郷・辰馬家喜十郎が建てた木造2階建ての擬洋風住宅。南面・東面にバルコニーを回す。明治21年(1888年)建築。	西宮市
④9	旧山邑家住宅 (淀川製鋼迎賓館)	国重文 (建造物)	魚崎郷・櫻正宗山邑家8代目太左衛門の別邸。大正13年(1924年)竣工。近代建築の巨匠フランク・ロイド・ライトの原設計。六甲山の傾斜地を利用して階段状に建てた鉄筋コンクリート造4階建の住宅。株式会社淀川製鋼所所有。	芦屋市
⑤0	私立灘中学校・高等 学校本館	国登録 (建造物)	御影郷・菊正宗嘉納治郎右衛門、白鶴嘉納治兵衛、魚崎郷・櫻正宗山邑太左衛門ら酒造家の篤志により、旧制灘中学校として創立。昭和4年(1929年)建築。学校のシンボルとして地域に親しまれている。外観は縦長の窓のデザインを基調とし、1階の石積み風の横目地を施し、2階正面の窓には尖りアーチ状の飾り窓が特徴。	神戸市
⑤1	甲南漬資料館 (旧高嶋家住宅主屋)	国登録 (建造物)	御影郷にある酒粕問屋高嶋平介商店で、甲南漬(奈良漬)製造で成功した2代目当主の邸宅。塔屋のパラポラアーチが特徴。昭和5年(1930年)建築。	神戸市
⑤2	御影公会堂	国登録 (建造物)	御影郷・白鶴嘉納家7代目治兵衛が出資・建設し、地域の社会活動に貢献した。展望塔であるフライタワーが特徴。昭和8年(1933年)建築。	神戸市

(※1)文化財の名称には振り仮名を付けること。

(※2)指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、

市無形、未指定(建造物)、等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※3)各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4)ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。